

第5節 国際緊急援助

主な事業概要と実績

① 災害援助等協力事業(国際緊急援助)

1. 事業の開始の時期・経緯・目的

● 開始時期

1987年9月、「国際緊急援助隊の派遣に関する法律」の施行により創設。

● 経 緯

海外の災害救援活動を行う人員を迅速に派遣する体制が必要であるとの認識の下、外務省は関係省庁ほか国内の病院、医療団体の協力を得て、海外の災害に医療チームを迅速に派遣するシステムを作ることとし、1982年、国際救急医療チーム(JMTDR:Japan Medical Team for Disaster Relief)を設立した。

その後、1985年のメキシコ地震等に対する援助の経験から、医療関係者のほかに救助、災害復旧の専門家を含む、より総合的な国際緊急援助体制の整備が必要であるとの認識が深まり、1987年9月、「国際緊急援助隊の派遣に関する法律」が施行された。

さらに、1992年6月には、国際緊急援助体制の一層の充実を図るため、自衛隊の技能、経験、組織的な機能を国際緊急援助活動に活用することを可能にする同法の改正が行われた。

● 目 的

海外の地域、特に開発途上にある海外の地域において大規模な災害が発生した場合、被災国政府または国際機関の要請に応じ、救助活動、医療活動および災害応急対策や災害復旧のための活動を行う国際緊急援助隊を派遣し、あるいは被災者の当面の生活を確保するために必要なテント、毛布、発電機等の緊急援助物資を供与し、国際協力の推進に寄与することを目的としている。

2. 事業の仕組み

● 国際緊急援助隊の概要

国際緊急援助隊には、被災者の搜索・救助活動を行

う救助チーム、医療活動(防疫活動を含む)を行う医療チーム、災害応急対策および災害復旧のための活動を行う専門家チーム、並びに上記諸活動のほか、輸送活動を行う自衛隊の部隊がある。

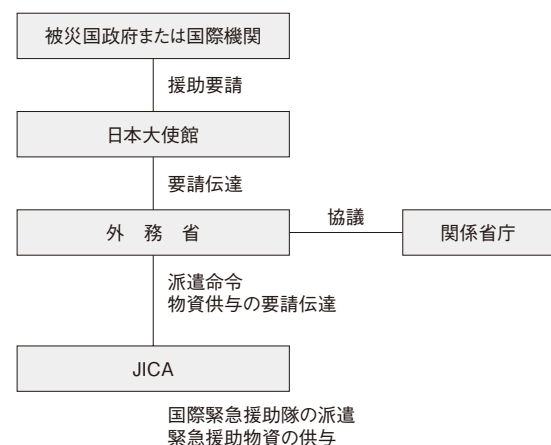
なお、被災国政府から日本に対し派遣要請があった場合、救助チームは24時間以内、医療チームは48時間以内をめどに日本を出発できる体制になっている。

● 緊急援助物資供与の概要

緊急援助物資の供与は、海外4か所(シンガポール、マイアミ、フランクフルト、ヨハネスブルク)に設けている備蓄倉庫から、被災者の当面の生活を確保するために必要なテント、毛布、発電機等を被災国に供与するものである。

● 審査・決定のプロセス

海外で大規模な災害が発生し、被災国政府等から日本に対して援助要請があった場合、要請の内容、災害の規模・種類等に応じて緊急援助の内容、規模について検討を行い、関係行政機関等との協議を経て決定する。援助要請から決定までのプロセスは次のとおり。



3. 最近の活動内容

● 概 要

2008年度においては、5月にミャンマーで発生したサイクロン被害に対して国際緊急援助隊医療チームを派遣し、3回にわたり合計約1億800万円相当の TENT 等の緊急援助物資を供与した。また、中国四川省で発生した大地震被害に対して国際緊急援助隊救助チームおよび医療チームを派遣するとともに、約6,000万円相当の TENT 等の緊急援助物資を供与した。

そのほか、8月にハイチ共和国におけるハリケーン被害、10月にイエメン共和国における洪水被害、12月にパプアニューギニア独立国における高潮災害など合計23件、総額約4億2,900万円相当の国際緊急援助物資の供与を行った。

2008年度の主な援助案件の概要は以下のとおり。

(1) ミャンマー連邦におけるサイクロン被害に対する緊急援助

2008年5月2日から3日にかけて、ミャンマー南部にサイクロンが上陸し、未曾有の被害をもたらした(死者8万4,537名、負傷者1万9,359名、行方不明者5万3,836名(6月24日ミャンマー外務副大臣発表))。これに対し日本は、ミャンマー政府からの要請を受け、国際緊急援助隊医療チーム23名(5月29日～6月11日)をミャンマー南部のエーヤワディー管区ラブッタに派遣し、約1,200名の被災者を診療した。医療チーム活動中は、テイン・セイン首相などミャンマー首脳が活動現場に視察に訪れ、激励と謝意表明がなされ、また、日本の医療チームの評判を聞きつけ、遠方から診療に訪れる患者が増えるなど、評価の高い活動となった。

(2) 中国四川省における大地震に対する緊急援助

2008年5月12日に中国四川省を震源とするマグニチュード8.0の大規模地震が発生し、死者6万名を超す甚大な被害をもたらした(死者6万7,183名、負傷者36万1,822名、行方不明者2万790名(5月27日中国民生部発表))。

これに対し日本は、中国からの国際緊急援助隊の派遣要請を受け、救助チーム61名(5月15日～21日)および医療チーム23名(5月20日～6月2日)を中国四川省に派遣した。

救助チームは、中国からの要請が接到した6時間

後に日本を出発し、四川省青川県および北川県において要救助者の捜索・救助活動を行い、合計16名の遺体を収容した。

また医療チームは、四川大学付属華西病院において中国医療関係者とともに医療活動を行い、中国側医療関係者とともに約1,500名の患者の診療にかかわった。

救助および医療チームの活動については、中国および日本のメディアで大きく取り上げられ、また、医療チームの活動中には、温家宝首相が視察に訪れ激励と謝意表明がなされた。

● 実 績

年度	国際緊急援助隊の派遣	緊急援助物資の供与
2006年度	3チーム(299名) ・インドネシア・ジャワ島中部地震(医療チーム、自衛隊部隊) ・フィリピン・ギマラス島沖における油流出海難事故(専門家チーム)	15件 (2億2,100万円相当)
2007年度	1チーム(6名) ・韓国西岸における油流出事故(専門家チーム)	22件 (3億8,000万円相当)
2008年度	3チーム(107名) ・ミャンマー連邦におけるサイクロン被害(医療チーム) ・中国四川省における大地震(救助チーム、医療チーム)	23件 (4億2,900万円相当)

4. より詳細な情報

● ホームページ

- ・外務省・ODA・緊急援助:

http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/seisaku/keitai/kinkyu/saigai_e.html

- ・(独)国際協力機構(JICA)・JICA事務所実績・国際緊急援助隊活動報告:

<http://www.jica.go.jp/activities/jdrt/index.html>